2024年度第71期卒業生紹介

西潟証師　安食教会副牧、千葉教会協力牧師

今までのお祈りとサポートをありがとうございました。これからいよいよ牧師としての歩みが始まりますが、主の働きの一部を担わせていただけるよう、日々主の恵みを慕い求め主と共に歩んでまいります。

特に、CS伝道のためにお祈りをよろしくお願いいたします。

どういう形になるか今は分かりませんが、CSに対する思いが与えられていますので、教会の皆さんと共に伝道をしていくことができるように引き続きお祈りをお願いいたします。

これからも同じインマヌエル教団のいちキリスト者として、よろしくお願い申し上げます。

第71期卒業式

BTC後援会費ご協力に感謝します

全国の教会の皆様のご支援により下記の通り会計報告できますこと感謝いたします。今後も後援会費（1口500円）のご協力をよろしくお願いいたします。

BTC後援会費収支報告書

（2024年10月1日～2025年3月31日）

項　目	収　入	支　出
24年9月30日繰越金	1,264,664	
後援会費（教会）	213,500	
雑収入（利息）	449	
オープンキャンパス参加補助費		97,200
通信費		34,858
印刷費		22,185
会議費		6,050
交通費		20,610
雑費		270
小　計	1,478,613	181,173
次期繰越		1,297,440
合　計	1,478,613	1,478,613

※後援会費は本部送金時に「BTC後援会費」と記載してお振込みください。

後援会世話人の教会紹介

十和田教会
立崎聖子姉

年頭聖句「第二コリント七・一」を心に留め聖潔の恵みと生涯を祈り求め歩んでおります。礼拝は先生方を含め十四名前後ですが御高齢の一婦人、全盲の方が休まず出席されその姿に励ましと信仰の挑戦を頂いています。昨年五月に牧師の緊急入院を機に礼拝司会者二名が加えられ、益として頂き感謝でした。無牧、兼牧の教会が増えている中多くの神学生が興される事を信じ祈ります。若い方々の定着が課題となっておりますが、一人ひとりが救いの恵みと喜びに満たされ、聖霊の助けと知恵を頂き七十八年続いた教会の灯を消す事なく生きた信仰を次世代に継承し前進して行きたいと切に祈ります。

「ローマ五・五」

（十和田教会正面入り口）

ホッとひと息

編集後記

企画担当から

今年の春は桜の開花期が長く、春を満喫できました。その様な中、四人の新入生をお迎えでき、献身者興起を願う多くの方々の祈りに主が応えて下さったことは本当に感謝です。若葉の季節になり、学院の学びも段々と充実して来る事でしょう。神学生のお一人お一人が平安と喜びのある四年間を過ごされるように心から祈り、エールを送ります。（M・B）

2025年5月1日　第17号
編集・発行人
中山朝雄（後援会会長）
後援会事務局
〒226-0024
神奈川県横浜市緑区西八朔町1194-2
※後援会についてお問い合わせは下記までご連絡ください。
メールアドレス
koenkai@btc.jpn.com

BTC 後援会たより

第１７号　2025年５月

「主の恵みに感謝し、祈りつづけましょう」

会長　中山朝雄

・ハレルヤ。主に感謝！

いつもBTC後援会のためにお祈りと尊いご支援を頂き心より感謝いたします。

今年度は四名の男子新入生（全員教団出身）をBTCにお迎えできますこと、主の憐みと恵みの故に心より感謝しております。これも献身者興起のための全国信徒の皆様の切実なお祈りと教団の地道な青年活動の賜物と感謝しております。これで在校生は男子七名、女子一名となり聴講生を含めると十名以上となり学友が増え学院も随分に賑やかになり本当に感謝です。神学生のこれからの学びと訓練が祝され、霊肉が守られ経済的必要も満たされますようにお祈りいたしましょう。また、引き続き献身者が与えられますようにお願い祈り続けましょう。

（詩篇一〇三篇一～二節，使徒行伝一二章五節）

・神学院での新しい授業スタートのお願い！

先般三月一日に牧師・信徒のために教団の人権委員会主催の第二回ハラスメント人権セミナーが開催されました。今回は聖公会京都支部で起きた司祭の性加害事案について講師から赤裸々な講演を伺い、同じキリストの群れにいるいち信徒としても大きな衝撃を受けるとともにキリスト教団においても真実に向き合うことの難しさと私達人間の罪深さを今更ながら思い知らされました。この教団以外でも発生しているハラスメント事案も多々ありますので私達自身も他人事ではなく自分事として真摯に受け止め牧師・信徒双方が十分認識をもって信仰生活を歩ませていただかなければなりません。そのためにはこの様な研修会をこれからも定期的に開催して牧師・信徒が一緒に学び続けていただきたいと願っております。

また、それと同時に魂を扱う牧師の養成機関である神学院は人権と八ラスメントの定義と真に人を尊ぶ生きた福音理解が出来るように事例研究を取り入れた「牧会人権学」的な授業を一学期間じっくりと神学生時代に学ぶことが現代を生きる牧師にとって必須ではないかと考えます。神学院・教団で至急ご検討いただきたいと願い祈っております。

（マタイ一一章二九節）

・BTCキャンパス清掃管理奉仕への支援願い！

信徒の皆様にBTCキャンパスの清掃管理運営へのご協力についてお願いがあります。BTCに来られた方はご存じだと思いますが広大なキャンパスの維持管理は大変なマンパワーが必要です。現在は田辺宣恵先生が中心となって数人の神学生が日々の学びと訓練の時間を割いて懸命に清掃等の維持管理を担っていてくださいます。具体的な日常の維持管理作業は、草刈り・植木刈込・測溝清掃・枯葉掃除・厨房炊事・ベテルハウス清掃管理等々、更に教団総会や年会等の受け入れ準備等があり少人数のマンパワーでは大変厳しいものがあります。

これまで折に触れ関東教区の教会の信徒有志等が支援してくださっておりますが、このような形での応援では限りがありません。つきましては、最近始まりました信徒局の教団活動支援部の全国の地方教会支援の様な形態でBTCキャンパス維持管理の組織的な支援体制の構築を後援会と一緒に対応していただくことができないか信徒局に検討をお願いしております。

信徒の皆様におかれましては、神学生がより良い環境の中で勉学と訓練に集中できるように、清掃管理等のご奉仕へのお願いについて支援体制が整いましたらご案内いたしますのでご協力頂きたく願い祈っております。

「語るのであれば、神のみことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。」

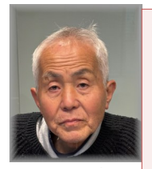
（ペテロ第一四章一一節）

目次

巻頭言 1
ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ参加者証し１ ... 2
ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ参加者証し２ .. 3
人間力の養成を 4
神学生の一日 4
25年度新郵政紹介 5
ＢＴＣ後援会収支報告..... 6
24年度第70期卒業生紹介.... 6
後援会世話人の教会紹介.... 6

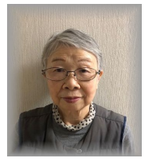
オープンキャンパス参加世話人証し（1）

昨年十月開催のオープンキャンパスに全国の世話人の皆様に参加案内をしたところ、五名参加してくださいました。体験授業や神学生とのお交わり等で神学院を体感するとても有意義な一日を過ごすことができました(総参加者数三十六名)。最終日には世話人会を持ち、幸いなお交わりの時を持つことができ感謝でした。



立川教会
柳井康信兄
（推進委員）

令和六年の十月二十五～二十六日、ベテルハウスでオープンキャンパスと「ＢＴＣ後援会世話人会」がありましたので、私は仕事の都合で二十五日だけの部分参加でしたが、多くの新鮮な恵みを頂くことができました。遠く山形教会から参加された後援会世話人の高橋兄や大宮教会の松井姉の二人とも親しく交わり恵みを分かち合うことが許され、かつオープンキャンパスでの体験授業と神学生の一人である神林氏の「救いと直接献身の証し」を伺うことができ感謝でした。前々から遠くの世話人の方々の名前やお証し等を伺っていた方と顔を合わせて親しく交わり、置かれている其々の教会での働きと長い信仰生活からくる恵みの洞察や愛の熱心に触れることは本当に幸いでした。特に、その方々が大きな試練をどう乗り越えられてきたかとか、教会間の協労や家庭人として何を大事にして生きていらっしゃるかをつぶさに体験的に伺うことは大きな恵みでした。ＢＴＣで今在籍されている神学生の本当に生き生きとした証しに与ると、主の臨在というか、「わたしは『わたしはある』という名である」という生きた神様が一人の人を「働き人」として召したもうとすることは、こういう事かと驚きを持って受け止めさせていただきました。そして、其々が散って母教会に戻られても神学院と教会の橋渡しである世話人としての今後の歩みに新しい愛の熱意と具体性を持った祈りへと導かれています。かつ、一切が大きな恵みの摂理（ご計画）にあるという驚きの伴う気づきでもあります。つまり今回のＢＴＣの集いにも「イエスさまがそこにいらっしゃった！」です



福井教会
浅地美津子姉

今年は、ＢＴＣに当教団出身の献身者二名をお迎えすることができました。」後援会たよりで確認し、日々の祈りを捧げておりました。　そんな中、ＢＴＣオープンキャンパスがあることのお知らせ、世話人の方々もどうぞといってもらえて、とても嬉しく思いました。

神学生はどんな授業を受けているのかしら？　私でもわかるのかしら？　どんな神学生がいるのかしら？　神学生同士の仲はいいのかしら？　環境の整備やら経済生活はどうなっているのかしら？　いくつもの「？」が私の頭の中に去来しました。私もこれに参加したい！と強く思ったのでした。

ドキドキ、ワクワクの一泊二日のオープンキャンパスはアッという間に終わりました。疑問がみんな解けたぞ！というわけではありませんが、学院の先生方、後援会の皆様、給食係のお手伝いの方々それぞれが楽しいそうにご奉仕をなされていることがわかりました。また、神学生の救いのお証し、信仰の体験談を沢山聴くことができました。

私も希望を持って、これから私のなすべき事をなしていこうと心に誓ったしだいです。

金沢教会
下谷　慈兄

今回、私がオープンキャンパスに参加したのは「神学院の現在を見てきたい」という思いからでした。一泊二日、神学生の方々のことばを借りれば「よそ行き」ではありましたが、貴重な経験ができて感謝です。

二十数年前、年会へ参加した時には世間と全く違う空間だという印象がありました。実際に行ってみると、当時より随分開かれた場であるという風に感じました。現在は神学生同士の呼び方が～兄弟姉妹、ではなく、～さんであること、そもそも男女神学生間で自然に会話をしていることも驚きでした。

また、神学生の方々による質疑応答の際、極めて具体的な返答をされたことも予想外でした。時代の流れとともに林先生、田辺先生の人柄や方針に依るところも大きいように思いました。他方、静まり祈るひと時を持つ場所、時間がしっかりと確保されている様子を見せて頂き、安堵しました。

体験授業については、事前に予習をしたにも関わらず、とても難しく自分の聖書理解の乏しさを痛感しました。

オープンキャンパスの後には世話人会も持たれ、五年ぶりに参加しました。世話人や推進委員の方々の救いの証を通して各人の人となりがわかり、神学院のために祈る時が持てて感謝でした。宿泊したベテルハウスでも神学院後援会会長、副会長、世話人の方と同室だったので色々話ができて、世話人としての活動の励みになりました。

これからも、神学院が取り組む課題や働きに関心を持ち、教会の皆様に伝える役割を担っていきたいと考えています。

オープンキャンパス参加世話人証し（2）

大宮教会
松井みどり姉

今回は八九歳の父がオープンキャンパスの申し込みをしていたことを知り、付き添いの意味もあって、既に申込み期限は過ぎていたのですが、電話をし申込みをしましたところ快く受け入れて下さり、急遽参加させて頂くことになりました。父はコロナ前まで頻繁にオープンキャンパスに参加していて、学ぶこと、そしてＢＴＣの方々とのお交わりを楽しみにしていました。私も急な参加とはいえ、期待して当日を迎え、普段なかなか出来ない父と娘の時間も充分楽しませて頂きました。

又、今回は最終日に世話人会がもたれることを参加して初めて知り、思いがけず、世話人としてお交わりに加わる事が出来たことも感謝でした。

綺麗に整ったベテルハウスに泊まって、美味しいお食事も魅力の一つです。ＢＴＣを知るうえでも、神様の恵みが溢れているオープンキャンパスを皆様にお勧めしたい気持ちでいっぱいです。

参加出来た恵みを感謝致します。ありがとうございました。

山形教会；高橋雅也兄

ベテルハウスはどこなのか？あっちこっちをうろうろしているところで、同じＢＴＣ世話人である松井姉にアテンドして頂きました。

ベテルハウスにての自己紹介のところでＢＴＣ世話人の皆さんと合流しました。暖かい雰囲気の中に「懐かしい」感覚が甦りました。私が最初にキリスト教会に入った時もこんな暖かい、そしてなんとも眩い雰囲気があった事を今更ながらに思い出しました。場所は違うけれど、確かにここにも愛のある人達の集いがあるなあ、地域は違えども同じ信仰なのだなあと感じました。（もちろん今の山形教会も変わらず、とても良い教会だと自負しております。）

簡単なアイスブレークの後直ぐに講義に入りました。

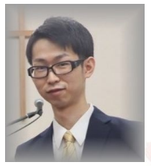
最初の講義は、前期の内容をまとめたものでした。ローマ人の手紙からの講義でしたが、その冒頭「皆さんは潔められていますか？」という参加者全員への問い掛けがありました。何人かの方が挙手されていましたが、私は自信を持って手を上げませんでした。しかしながら、神の選びにより、「聖徒」とされた私たちは既に潔いのです。そこには変な謙遜は必要無いのです。確かに神様は私を選び、「あなたは私の者」と言ってくださっている。ですから、私は潔められた者なのです。

密度の濃い講義の後で質疑応答もあり、アカデミックな場でありつつも、とても話しやすいフランクリーな講義でした。

二日間の神学院オープンキャンパスでしたが、神学生の皆さん、あるいはスタッフの先生方、更には参加された信徒の皆さんとの交わりがとても印象的でした。神学院入学希望の兄弟の召命の御証、神学生の皆さんの日々の学びの感想、実感などを聞かせて頂きました。若い信徒時代に戻った様に遅い時間までいろいろな事を話し分かち合いました。神学院はとても良い雰囲気を持っていると感じました。スタッフの先生方と神学生の関係が良い意味で開かれた、意見を言い合える様な場であると感じました。ＢＴＣオープンキャンパスの全ての日程を終えてから、ＢＴＣ後援会の交わりの時がもたれました。世話人の皆さんから様々な御証を聞かせて頂きました。初めてお会いした世話人の皆さんが私には旧知の間柄、戦友（経験は有りませんが…）の様に感じました。今でもそうです。中には長文の直筆のお手紙をいただいた兄弟もいます。この励ましのお手紙は山形教会の有志の方々にも分かち合わせて頂きました。感謝です。

山形に戻ってからは、神学生一人一人の為に、更には次に入学予定の兄姉の為に教会のみんなとともに祈っています。やはり名前と人柄の一致は祈るモチベーションを上げます。そういう意味でも、今回の世話人の「ＢＴＣオープンキャンパス参加」の企画は本当に価値あるものと感じています。

これを弾みに、引き続きＢＴＣ後援会の皆さんのお祈りの輪の中に山形教会員一同加えさせて頂きたく思っております。よろしくお願いします。



豊田教会
根岸光洋兄

自然豊かな環境の中で、聖書の学び・歴史を学ぶことが出来ました。聖書とホーリネスの授業ではパウロが聖書の中で語る「聖なる者たち」の意味は旧約聖書から基づいており、連続性があることを分かりやすく教えて下さいました。モーセ五書の授業では、当時の祭司が身に着けていた装束（レプリカ）を神学生の方が着てくださり、装束の意味や当時の礼拝の様子を再現してくださいました。その他にも、神学生の方たちの献身のお証やＢＴＣの見学ツアーを通してＢＴＣの様子や献身に対する思いを目にすることが出来てとても感謝しでした。一人でも多くの方に神学院のことを覚えていただき、今後のＢＴＣの働きがより豊かなものとなりますように願っております。

人間力の養成を

坂岡隆司兄

京都伏見教会
（人権委員会委員）

聖宣神学院は、教団独自の教育訓練機関として教団草創期に設立されたと聞いています。インマヌエルの教職者のほとんどが卒業生だと思います。その意味では、全国のインマヌエル教会は神学院によって作られていると言ってもよいかもしれません。その神学院も、このところ入学者数の低迷が続いており―これは他教団も含め全国的な傾向でもありますが―大きな祈りの課題となっています。そんなか今春、四名の新入生が与えられたことはまことに喜ばしいことでした。ぜひ充実した学院生活を送っていただきたいと思います。そのために私たちは祈りはもちろん、出来る限りのサポートをしていきます。

ところで、神学院では何と言っても「人」が作られて欲しい、と私は願っています。どんな仕事でも「人」で決まると言われます。企業も人。福祉も人。医療も教育も人。まして、牧会伝道の働きにおいてはなおさらでしょう。大切なのはやはり「人」、特に人間力の養成です。どれだけ自分を知っているか、目の前の一人の人間に、どれだけ想像力をもって心寄せることが出来るか。聖書の知識や神学の学びも大切ですが、まずはこれだと思うのです。主イエスは「人としての性質をもって現れ」（ピリピ2：7）てくださいました。主が「人として」、私たち一人ひとりに近づいてくださったというのには深い意味があるように思います。

人間力について、もうひとつ。昨年ある学び会で、講師の牧師さんが、牧師の「孤立」について、メンタルを病んだ ご自身の経験を赤裸々に語ってくださったのを聴きました。

ボッチ牧師が多いという話です。自分をいかにメンテナンスしていくか。これももう一つの人間力だと思います。

『弱音をはく練習』（＊）という本を書いた牧師さんがいますが、私たちはなかなか弱音をはけないものです。でも、弱音をはくとき、人は「神の導きによる『出遭い』を感じる」のだと。こういう自己開示力の鍛錬がなされる神学院であったら素敵だろうと思います。

＊『弱音をはく練習』（沼田和也、ベストセラーズ、2023）

神学院での一日

「主を見上げることを覚える日々」

正規コース二年　吉村　聡

「私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」詩篇一二一篇一～二節

（吉村聡神学生）

いつも貴いお祈りと励ましをありがとうございます。昨年入学が許されてから、早くも一年 が経ちました。ここまで主が守り導いてくださったことを思い、感謝を新たにしています。

一つひとつの営みを、振り返ったときに、本当にたくさんの恵みをいただき、その内にある平安を喜ぶ機会も多く与えられました。

しかし時にクラスでの学びにしても、奉仕にしても、普段の生活にしても、自分の至らなさや弱さを思わされる場面もありました。

いやむしろ、そ のようなところへと導かれているように感じることがありました。

自分の弱さや至らなさを目の当たりにすると、落ち込みます。そして不信仰なことに、まるで主を忘れてしまったように、「私の助けはどこにあるのだろうか」という呟きがよぎります。

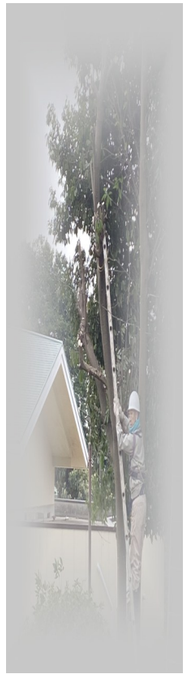
しかし反省が与えられ、嘆きの中で絞り出すように祈ったときに、不思議と「私の助けは主から来る」という思いへと心が開かれ、主に信頼する信仰をもって、なんとか踏ん張ることができたという経験へと導かれていきました。

自分の力不足への落胆については、おそらくこれからも何度も経験すると思います。しかしそのような時に、そこにうずくまり続けるのではなく、どこに目を向けるべきなのか。

「天地を造られ」、すべてを治めておられる主に目を上げて、折にかなった助けをいただきながら歩んでいく。そのことを教えられた一年であり、またこれからの日々でもあると思います。

遅々として成長の進まない私ですが、「天地を造られたお方」から目を離さず、主からの助けをいただきながら歩んでいくことができるよう、小さき者のためにお祈りの端に加えていただけると幸いです。

２０２５年度新入生紹介



（長坂克光兄）

・修了者コース
・立川教会出身
「お祈りよろしくお願いいたします。ともに主に仕えて参りましょう！」

（杉田流司兄）

・正規コース
・仙台教会出身
「主の導きによりＢＴＣ入学が許され、学べる恵みに感謝します。」

（岩上和也兄）

・正規コース
・神戸教会出身
「主のために仕えていきます。小さきもののためにお祈りいただければ幸いです。」

（田辺大空兄）

・正規コース
・神学院教会出身
「これから始まる学びのために覚えてお祈りいただければ幸いです。」

（在校生とともに）
前列左から、長坂兄、岩上兄、田辺兄、杉田兄
在校生；（前列）水口恵姉、石川真紀子姉
（後列）吉村聡兄、水口聡兄、神林勤兄

入学式・始業礼拝後の愛燦会
田辺寿雄師、岩上和也兄、長坂克光兄、杉田流司兄

★日々お祈りください★

①献身に導かれる方が与えられるように。特に若い方々が更に加えられるように。
②神学生の学びと訓練が祝されますように。
③教師、職員、スタッフが恵みによって用いられるように。
④今後のキャンパス活用に主の導きがあるように。
⑤神学院の清掃管理支援や経済的必要が豊かに満たされますように。
⑥後援会の世話人、役員、推進委員が尊く用いられますように。